

2017年12月

## 介護の現状と課題

経営学部 経営学科 坪井ゼミ  
b4r11199 渡辺 慶

### 【卒業論文概要】

2000年4月、「介護の社会化」をうたう公的介護保険制度が開始された。この制度の開始によって「介護」の社会問題化過程は、「家族」という私領域の問題から介護保険制度という公領域の問題に大きくシフトし、「問題」の位相もまた異なった局面に移行しつつある。しかし、制度が施行されたとはいえ、その在宅サービスの水準が「無償の家族介護を前提とし、それを補完する制度」とされる現状では、「介護問題」として提訴されてきた問題点の多くは未解決のまま残されているといえる。

本論文の目的は、様々な介護問題がある中で、その問題をどうやったら解決できるか。どうやったら解決する方向にいけるか考え、答えを明らかにすることである。

財産の多少にかかわらず誰でも介護が受けられるように、介護ポイント制度を作る。自身が健康な時に、地域の高齢者や被災地の人など困っている人たちの手助けをし、介護ポイントをためる。自分が高齢者になり介護が必要になった時、そのポイントで介護を受けることができるというような制度を作ることで介護の不平等を解消することができる考える。また介護を受ける前から、健康のことを考えていく高齢者一人一人の意識改革が必要である。介護士の様々な負担軽減のための高齢者の健康管理や施設の清掃等AIの導入や肉体を酷使する入浴介助や移乗介助、精神的な苦痛を伴う排泄介助を機械で補うことを通して介護士の肉体の負担軽減、人件費の削減、抵抗感の軽減につながる。それがひいては介護士を増やすことにつながると考える。